

検診によるAFOまたはKAFO

www.orthosis-configurator.com/ja

義肢装具士: _____

会社: _____

顧客番号: _____

日付: _____

患者の個人データは、注文処理と統計学的評価のために保管・使用されますのでご了承ください。装具の荷重容量の計算は、ここに記入されたデータに関連付けて行われます。このデータは、装具を利用しているうちに変化することがあります。この装具療法シートに記入する際は、今後考えられる変化を考慮に入れてください(例: 体重変化、筋肉強度の成長や変化)。

患者データ

患者氏名

生まれた年

体重

脚

kg

左脚
右脚

データプライバシーの目的のため、下の名の最初の2文字と、名字の最初の2文字のみを記入してください。

性別

身長

左右の足で以下の点が異なっている場合は、装具療法シートを2枚使用してください。

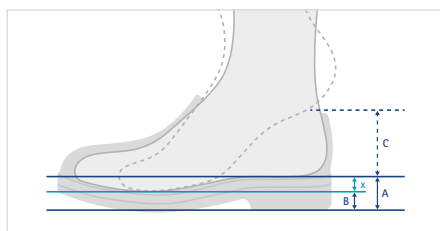
女性
男性

cm

靴の測定

靴サイズ (EU)

(足の長さ + 1.5cm) x 1.5



踵高さ(A)

踵と爪先の高低差
($x = A - B$)

mm

mm

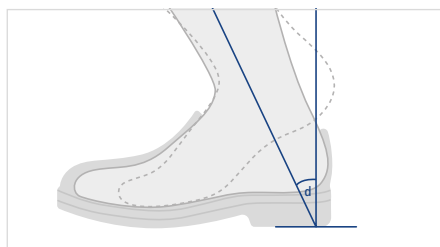
靴底厚さ(B)

高さ補償(C)

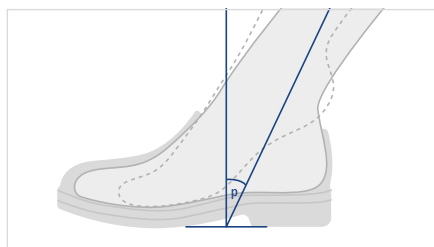
mm

mm

上側足関節の運動範囲



背側



底側

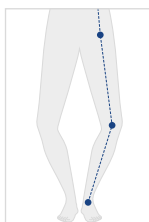
膝レベルの不安定性/変形

生理学的位置

内反変形

最大

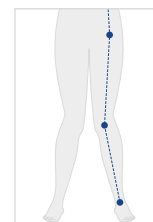
装具装着時の推定



外反変形

最大

装具装着時の推定

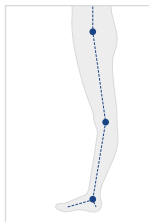


検診によるAFOまたはKAFO

www.orthosis-configurator.com/ja

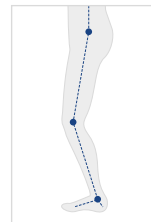
生理学的運動範囲
過伸展

最大 装具装着時の推定



伸展の制限

最大伸展 装具装着時の推定

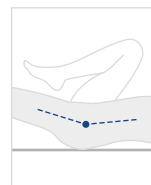


股関節レベルの不安定性/運動制限

生理学的運動範囲

伸展の制限

最大伸展



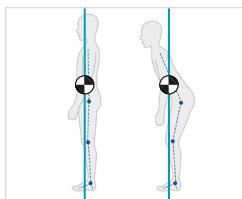
検診時に立つことができるか (補助が必要な場合も含む)

検診は患者が (少なくとも部分的に) 立った状態で行うことができる。 はい いいえ

鉛直線の経路 (身体の重心から)

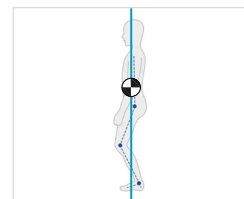
鉛直線が膝の旋回点を通る、または膝の旋回点より前を通る。

これは、重度の伸展制限の場合に起こることがあります。これは例えば、身体を前に曲げることで補償することができます、また装具で補正することが可能です。



鉛直線が膝の旋回点より後ろを通る。

これは、重度の伸展制限の場合に起こることがあり、装具で補償や補正をすることはできません。



6分間歩行試験を行う前の筋肉強度 (Jandaによる分類)

股関節屈曲

股関節伸展

0 1 2 3 4 5

0 1 2 3 4 5

膝関節伸展

膝関節屈曲

0 1 2 3 4 5

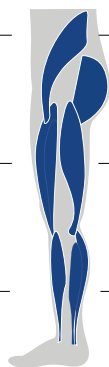
0 1 2 3 4 5

背屈

底屈

0 1 2 3 4 5

0 1 2 3 4 5



- 0 (ゼロ) = 完全まひ、収縮の徴候なし
- 1 (わずか) = 若干収縮するが、関節は動かない
- 2 (不良) = 重力がかからない状態で完全な運動範囲
- 3 (可) = 重力に対抗して完全な運動範囲
- 4 (良) = ある程度の抵抗と重力に対抗して、完全な運動範囲
- 5 (正常) = フル強度の抵抗と重力に対抗して、完全な運動範囲

検診によるAFOまたはKAFO

www.orthosis-configurator.com/ja

6分間歩行試験 (6MWT)

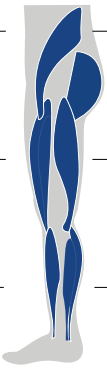
この試験は、筋肉疲労を引き起こすためのものです。最初の筋肉機能検査の後に行う必要があります。6MWTの直後に2回目の筋肉機能検査を行って、筋肉疲労を考慮に入れた筋肉強度を測定します。

完了 右記経過後に中止 _____ 分
歩行合計距離 _____ m = 経路を歩いた回数: _____ X 経路の距離: _____ m

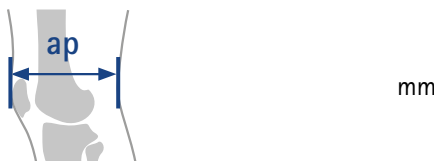


6MWTの後の筋肉強度 (Jandaによる分類)

0 (ゼロ) 1 (わずか) 2 (不良) 3 (可) 4 (良) 5 (正常)

股関節屈曲		股関節伸展
0 1 2 3 4 5		0 1 2 3 4 5
膝関節伸展		膝関節屈曲
0 1 2 3 4 5		0 1 2 3 4 5
背屈		底屈
0 1 2 3 4 5		0 1 2 3 4 5

Ap測定値 (KAFOの膝の機械的旋回点)



活動レベル



1. 屋内歩行

患者は、装具を使って、平らなところをゆっくり移動することができるか、または移動できるようになる可能性がある。身体的な障害により、ごく短距離・短時間の歩行が可能である。



3. 無制限の屋外歩行

患者は、普通～早足の速度で、および変化する速度で、歩いて移動することができるか、または移動できるようになる可能性がある。ほとんどの環境障害物に対処することができる。さらに、患者は自然環境を歩くことができ、装具に対する平均以上の機械的荷重をかけない程度の、職業的活動や治療的活動、その他の活動を行うことができる。



2. ある程度の屋外歩行

患者は、装具を使って、ゆっくりした速度で歩いて移動することができるか、または移動できるようになる可能性がある。縁石や段差、凹凸のあるところなど、小さな環境障害物に対処することができる。



4. 特に高強度の無制限屋外歩行

患者は、装具を使って、無制限の屋外歩行で移動することができるか、または移動できるようになる可能性がある。さらに、機能要求が高いことから、装具に対して高い衝撃荷重、張力、変形力が生じる可能性がある。主にアスリートと子供が該当する。